

資料1 個別ケース記録

かみやま倶楽部の概要

事業所名	大阪市北区社会福祉協議会 北区在宅サービスセンター 通称『かみやま倶楽部』		
設立日	2014年8月	通所定員	10人
事業所の理念	<p>初期の認知症や若年性認知症の方々が利用しやすい デイサービスをめざします。</p> <p>*アクティブにすごします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の活動 ・ボランティア的活動 ・趣味活動 <p>*ご本人同士の交流を重視し、やりたいことを見つけだし、実行していきます。</p> <p>*自分で選ぶというチャンスを多く持ちます。</p> <p>*家族が学べる時間や座談の時間を持ちます。</p>		
事業所の環境	都市部繁華街に位置し、近隣には商業施設や公園がある。外食できる店舗が近隣に多数ある。最寄駅までの距離は地下鉄2駅、JRの2駅、私鉄1駅から徒歩5～10分程度である。		
職員の概要	管理者 1名、介護福祉士1名、介護職1名、看護師1名		
利用者の構成	性別	男性（16）人 女性（4）人	
	年齢	50歳代 2人 60歳代 11人 70歳代 5人 80歳代 2人	
	要介護	1（13）人 2（6）人 3（1）人	
	原因疾患	血管性 0人 アルツハイマー型 13人 前頭側頭葉 6人 その他 1人	
その他特記事項	入浴は実施していない。送迎は、区内は無料。区外は有料。		

1日の流れ

時間	プログラム名	具体的内容
10:00	朝の会	バイタルチェック、挨拶、本日の予定の話し合い
11:00	活動	ラジオ体操、ストレッチ、朗読など
11:30	昼食	外食、お弁当購入、調理など
12:30	食後の活動	歯磨き、食事のあとかたづけ、昼寝（一部の人） 談笑、囲碁など好きなことをして過ごす
13:30	活動	予定の確認、作業活動、スポーツ、散歩など
15:30	振り返りの会	一日の振り返り、感想、掃除

個別ケース 1

性別	男性	年齢	64歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年 8月 8日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成21年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無 途中まで公共交通機関を利用し一人で通い、送迎車と待ち合わせ場所まで来られる。						
生活歴 (職業など)	会社員 (家電メーカー勤務の営業・企画)						
性格・趣味 など (現在)	もともと穏やかな性格。スケッチ						
本人の希望	アートワークや人との関わりを楽しみたい。						
家族の希望	デイサービスで、作業や工作、習字などを楽しんでほしい。						
利用に至った経緯	NPO法人でアートワークに参加していた。若年認知症に対応している新しいデイサービスができ、そこでアートワークができるようになったので。						
利用による変化	プログラムなどの提案や自分の思いなどを積極的に発言される。 失行によりできないことは増えたが「みんなですることに意味がある」と本人同士の交流を楽しまれている。「アートワークは個人で作成するけれど、みんなでできることを作って行きたい。みんなで仲良く意見し合えたり何でも話せる中になりたい。」と話される。						
好まれている プログラム	アートワーク、バーベキューなど アートワークについては、「テーマは同じでも、それぞれの個性を大切にしている」「作品が残る」「作品を通して家族とのコミュニケーションがとれる」と話される。						
その他	妻からは「家に帰るとすべて忘れているみたい」「何を描いてきたの」と、妻に聞かれて以前は答えられていたけれど、「何をやったのかな」「どれやったかな」と探し出す。記憶には、残りにくくなくても、アートワークは楽しみにしている。 NPOでアートワークに通っていた時より、のびのびされている感じがある。もう少し固い緊張した感じがあったが、柔らかくなった様に感じる。						

個別ケース 2

性別	男性	年齢	58歳	要介護度	要介護1	利用開始日	25年9月5日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度	25年4月		
家族構成	妻 子2人						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 (有) 無 自宅からはヘルパーと同行し、地下鉄を利用。改札口までスタッフが迎えに行き来所。						
生活歴 (職業など)	自営業 (バーコードの印刷)、 会社勤めの経験もある。						
性格・趣味など (現在)	もともと、口数は少ないほう。ゴルフやスポーツ観戦が趣味。						
本人の希望							
家族の希望	夫の外出の機会を増やし、少しでも進行を遅らせて、できる事を見つけて行きたい。						
利用に至った経緯	包括支援センターに相談に行き、若年性認知症の方のデイがあると案内されて、一緒に見学。利用することになった。						
利用による変化	<p>新たな人が関わると離れていくという行動をとられていたが、顔なじみのスタッフや利用者に対しては、離れるような行動は示さず話を聴いて一所懸命答えようとしたり、相槌をうたれる。また、活動で気分が良いと気持ちが表情にあらわれ、声を出して笑われる。</p> <p>湯が沸いていて、誰も気づかないと「湯わいているで～」と言ってくれる。</p> <p>進行性非流暢性失語があるものと思われる。言いたいことがあるが、言葉が出て来なくてイライラしていることがある。言語療法をはじめると、時間に自ら言語療法をしている部屋に行ったり、食後のコーヒーを飲むことを待ったり、時間により判断し自分で次の行動を取ろうとしている。時刻表的行動が決まってきた、それができていると落ち着いている。</p> <p>椅子と動かしたり、よくスタッフを手伝ってくれるようになった。</p> <p>家では何度も歯磨きをするが、かむやま倶楽部では1回のみで終わる。</p>						
好まれているプログラム	手先や身体を動かす作業、外出						
その他	<p>自分からは殆ど話をされないが、何が話題になっているか理解でき、他者の話にも耳を傾けている。</p> <p>問いかけに対しては、相手の言葉を復唱的に繰り返して、語尾だけ変えて答える形が多いが、全部自分の言葉で表出することもある。</p> <p>意識すると発話は難しいが、無意識になっていると言葉が出る。</p> <p>身の回りの物 (ノートや定期入れなど) がないことに気づくと落ち着かなくなり、突然席を離れて探し回る。(口頭では伝えられないので、スタッフが察する必要がある)</p> <p>書字障害あるが、氏名は書ける。(振り返りノートには、毎回、〇〇 (男) 名前を書く)</p>						

	<p>来所されると、所定の場所に荷物を置き、必要なものを取り出して、すすんでバイタルチェックする、昼食後は歯磨きをしてコーヒーを飲むなど、一日のスケジュールに沿って行動されている。</p> <p>座る席も決まっており、変わると落ち着かない様子が見られる。</p> <p>自宅では、ウロウロ歩いたり、拘りが強くなったりしているため、自宅でも何かできる作業を、かみやま倶楽部で試してみる必要があるのではないか。</p>
--	---

個別ケース 3

性別	男性	年齢	72歳	要介護度	要介護1	利用開始日	25年12月12日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成23年12月		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	会社員 (原寸工)						
性格・趣味など (現在)	釣り						
本人の希望	これからも変わらず生活したい						
家族の希望	人との関わりや、楽しみのある生活を送って欲しい						
利用に至った経緯	利用中の他のデイサービスに拒否があり、家族が講演会で知人より紹介された。						
利用による変化	ここに来ると、「色んな事ができるから楽しい」と話され、特に調理場面では生き生きと活動されている。他利用者との交流が増え、仲間意識が芽生えている。						
好まれているプログラム	調理 囲碁						
その他	家では何もすることがない。本を読むのが好きだったが、本を読むと頭が疲れる。散歩に出ると帰れなくなる。囲碁は「近所に相手が居ないし、碁会所は高い」と話される。アートワークは好きではないようなので、利用日を変更することになる。						

個別ケース 4

性別	男性	年齢	55 歳	要介護度	要介護 1	利用開始日	平成 25 年 9 月 3 日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度	平成 22 年		
家族構成	一人暮らし			認知症高齢者の日常生活自立度 II a			
サービスの利用状況	通所 週 (3) 回 送迎 有 (無)						
生活歴 (職業など)	銀行員、会社の経理						
性格・趣味 など (現在)	ナンプレ、パソコンゲーム						
本人の希望	歩くことは体にいいから歩きたい						
家族の希望	デイサービスにできるだけ参加して欲しい						
利用に至った経緯	就労を希望したため就労移行の事業所で訓練を受けたが、やる気の出ない様子で、訓練継続が難しかった。独居のため、日中活動の場が必要。						
利用による変化	<p>利用当初はラジオ体操第 1 だけでも休憩してしまうほど体力低下が著しかったが、昼食、昼寝、パソコンゲーム、他利用者との活動などを、自分のペースを作り行うことができるようになり、長時間の外出や一日外でレクリエーションにも対応できるまで体力が回復した。</p> <p>また、週 1 回の利用からはじめたが、本人は増やしたくないと言いながら、家族の説得もあり週 3 回の通所が定着した。</p> <p>「まだ、名前聞いていない人がいる」など、周りの状況をよく見ている、スタッフが忘れていることをチェックしてくれる。</p> <p>「ひとりで歩きたい」と言う時に、「ここでみんなのできることをしよう」と話すと「まあ、そうやけど」とすんなり受け入れてくれる。「みんなで」何かすることを大切にしてくれるようになった。</p> <p>弁当のゴミの分別をされ、自分で弁当箱を洗ったり処理できている。</p>						
好まれているプログラム	外出						
その他	<p>朝起きられず、定刻に来所できない事が多い。</p> <p>一人で通っているが、脱抑制行動があり、外出時は付き添いが必要。</p> <p>「一人だったらしないけど、みんなとできるからいい」と話されたことがあり、「一人で歩きたい」という希望や、やる気のない時には、『みんなで活動しましょう』と働きかける。</p> <p>円形脱毛やゲップが多いので、それが悪くならないか気をつける。</p>						

個別ケース 5

性別	男性	年齢	65歳	要介護度	要介護3	利用開始日	平成25年 8月 2日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度	平成20年		
家族構成	妻と子供二人の四人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 (有) 無 バスで途中まで一人で来て、送迎の車に乗る。						
生活歴 (職業など)	自営業						
性格・趣味 など (現在)							
本人の希望	毎日歩きたい						
家族の希望	本人の心地良く過ごせる場所で、なるべく今の穏やかな状態を保って欲しい						
利用に至った経緯	活動的なため、高齢者に怖がられ、他のデイサービスの利用が困難になった						
利用による変化	<p>利用当初は歩くことにこだわり、頻回に歩きたいという欲求があったが、歩くだけでなく、ミーティング、体操、作業など、他のメンバーとともに1日のプログラムに沿って過ごせるようになった。決まった時間に昼寝をして、1時間くらいで自分で起きてくる。</p> <p>また、外出時はコースを他者に合わせたり、他者にお茶を入れたり、他者への配慮ができるようになった。</p> <p>仲間意識が芽生え、自分から他利用者を卓球に誘っている。</p> <p>気配りされ、他の人のお茶を注ぐ、おやつを自分だけでなく他の人にも配る、時間に合わせて散歩コースを変えたり人に合わせる、相手にたずねてから行動する。</p> <p>吸い殻のたばこを隠れるようにして吸うことに、何度も「してほしくない」とスタッフが伝えた。最近は少なくなった。自分の新しいたばこを喫煙場所で吸っている。</p> <p>かつ丼以外のものが食べられるようになった。食後の歯磨きをするようになった。</p> <p>自分のノートを出して、体温、血圧を書いている。席について待っていてくれるようになった。</p> <p>口笛と握手を、場所に合わせて静かにしたり、短くしたりすることができるようになった。</p>						
好まれているプログラム	外出、卓球						
その他	<p>意味性認知症のためスタッフの言ったことを理解して行動に移すことが難しかったが、生活のパターンや他者との共同作業をすることが確立してきたからか混乱することはほとんどない。</p> <p>握手や声掛けなど、コミュニケーションをよくとるようにすることが重要。</p>						

個別ケース 6

性別	男性	年齢	74歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年11月5日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成23年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (5) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	不動産経営、 ミシンの営業の経験もあり (トップセールスマン)						
性格・趣味 など (現在)	何事にも一生懸命 曲がったことが嫌い 将棋						
本人の希望	休まずデイサービスの利用を続けたい。						
家族の希望	規則正しい生活をしてほしい。						
利用に至った経緯	家に居ると、甘い物を食べ過ぎたり、横になったりして過ごす。近隣との交流も少なくなってきたおり、もともとは社会的である為、人との交流が図れるようにしたい。						
利用による変化	<p>人との交流を楽しみ、イキイキとされており、本人の希望で利用日数が増えた。</p> <p>デイサービス以外の場所でも、社会的になっている。仕事関係の人などに自分からあいさつすることが増えた。</p> <p>家に居ると、食欲を抑えることが難しかったが、デイサービスを利用するようになり、規則正しい生活ができるようになってきた。</p> <p>家では、料理は女の仕事としていなかったが、かみやま倶楽部では自分から積極的に料理に参加している。</p> <p>若い人が多い時にはリーダーシップを、自分より年上の人に対しては厳しくないなど相手に配慮して対応されている。</p> <p>「頼りになります」と伝えると喜んでくださる。(本当に頼りにしています)</p> <p>家で採れたみかん等を持参して、みんなにふるまってくれる。</p> <p>テレビのインタビューにしっかり答えていた。</p> <p>他の人が、マナーを欠いた行動をすると厳しくしかるが、その人が謝ってくると「みんな、仲間やからね。いいよ」と許してくれた。</p>						
好まれているプログラム	勝負事。将棋。仕事の作業。コマ回し (手続き記憶) アートワーク						
その他	<p>仕事の作業では、指揮・監督的な役割で、若い利用者を励まし作業を続けさせてくれる。</p> <p>仕事の願いは、まず最初に話を通すことが重要。必ず、仕事をお願いしたいときには相談すること。</p>						

個別ケース 7

性別	女性	年齢	67歳	要介護度	要介護2	利用開始日	平成25年9月19日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度	平成21年		
家族構成	夫と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	主婦						
性格・趣味 など (現在)	卓球 園芸						
本人の希望	認知症があり不安を感じている。あまりどこにも行きたくないが、体重が増えるのが気になるので、デイサービスを利用してみたい。						
家族の希望	他者とふれあうことで認知症の進行を防止したい						
利用に至った経緯	他のデイサービスでは続かなかった。						
利用による変化	友人ができ、会話が弾み、笑顔が絶えない。 調理方法が困難だったが、自宅でも料理の予習復習をされるようになった。主婦としての自信を取り戻され、昼食の後片づけなどでも、積極的に動かれる。 他のデイサービスでは、3回で行かなくなった。かみやま倶楽部でも来れなくなったが、本人の好きな花がモチーフのアートワークに誘ったら参加された。 人懐っこく世話をしてくださるので、人と人をつないでくれるような、みんなが和やかになる雰囲気を与えてくれる。						
好まれているプログラム	料理、アートワーク						
その他	頑張り屋なので、本人のしんどいと思っていることにも耳をかたむけ、話しができるように配慮する必要がある。						

個別ケース 8

性別	女性	年齢	65 歳	要介護度	要介護 1	利用開始日	平成 25 年 8 月 1 日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成 22 年		
家族構成	独居						
サービスの利用状況	通所 週 (1) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無 娘さんと一緒に来ることから、送迎車を利用できるように練習中						
生活歴 (職業など)	結婚後もずっと仕事をしていた						
性格・趣味 など (現在)	歌 (美空ひばり、天童よしみが好き)、踊り						
本人の希望	楽しく過ごしたい						
家族の希望	本人が楽しいことをさせてあげたい						
利用に至った経緯	アートワークの継続のため。						
利用による変化	娘から離れることができなかったが、安心できる場所であると実感できると、徐々に娘と離れて過ごす事ができるようになり、活動や他者との交流が楽しめるようになった。 もともと、男性に対しての恐怖心があったが、男性の利用者やスタッフと楽しそうに交流ができるようになった。 好きな歌手の映像を見て楽しんだり、アートワーク以外のことも楽しめるようになってきている。						
好まれているプログラム	アートワーク、歌、踊り						
その他	今まで自宅から一人ででかけることがなかったが、夜間などに出かけるようになってきて、家族が心配している。本人の変化や、家族の介護負担の度合いにも気をつけていく必要がある。						

個別ケース 9

性別	男性	年齢	83歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年 8月5日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成22年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	会社員 その後、室内インテリアの施工						
性格・趣味 など (現在)	詩吟						
本人の希望	散歩をしたり、詩吟をしたり、自分のペースで生活したい。						
家族の希望	色々な支援を受けて、共に生活していきたい。						
利用に至った経緯	妻の負担の軽減						
利用による変化	<p>本人は詩吟を教えるつもりで来所されたので、利用当初は詩吟にしか興味を示されなかったが、様々な活動に楽しんで参加されるようになった。自宅でも家事を手伝うようになったり、以前は見なかった歌番組を見たりするようになった。近所の人にもあいさつし、明るくなった。利用当初は杖歩行されていたが、体幹がしっかりして、ふらつかなくなり、杖は持っているだけの状態となった。カフェの時はコーヒーを3杯載せて運んでも安定している。</p> <p>話題が広がり、同じ話の繰り返しがなくなった。</p> <p>「ここ来ると1歳ずつ若返る」と話される。</p>						
好まれているプログラム	詩吟 歌						
その他							

個別ケース 10

性別	男性	年齢	79歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年8月6日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成18年		
家族構成	妻と息子の三人暮らし						
サービスの利用状況	通所 月 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	小学校の教師。その後5年間留学生(大学生)の教育。						
性格・趣味 など(現在)	朗読、歌						
本人の希望	家族と共に安心して在宅生活を続けていきたい						
家族の希望	自分の身体に不安を感じているが、介護サービスを利用しながら、夫の介護を続けていきたい。 認知症の進行を防ぎたい						
利用に至った経緯	妻の介護負担の軽減。病状の進行を防ぎたい。NPOの実施する歩く会からの紹介。						
利用による変化	興味のないプログラムでは時間をもてあましていた様子だが、朗読などは先生の口調で声掛けし、大きな声で朗読され、他利用者から一目置かれる。 日程を書いているホワイトボードを見て、スケジュールを自分で確認される様子が見られる。 はがきの袋詰めや、カッターナイフを使った作業では、席を立たれることはなく作業に集中される。						
好まれているプログラム	朗読、歌、はがきの袋詰め、カッターナイフを使った単純作業(チラシのカットなど) アートワーク(スタンプの工程)						
その他	自分では、どこかに行くつもりがなくても、外出先で他の人と離れて歩いたりされるので、必ずスタッフが見失わないように注意する必要がある。						

個別ケース 11

性別	女性	年齢	64歳	要介護度	要介護2	利用開始日	25年12月6日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度			
家族構成	夫と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 有 (無) 夫と共に来所						
生活歴 (職業など)	大手家電メーカー勤務						
性格・趣味 など (現在)	卓球 歩くこと パチンコ						
本人の希望	歩こう会 卓球をしたい。						
家族の希望	病気の進行を遅らせたい。本人にあったデイサービスを利用したい。						
利用に至った経緯	地域包括支援センターからの紹介 夫の介護負担の軽減。地域の活動に参加していたが、徐々に参加するのが、難しくなってきた。						
利用による変化	夫が送迎していたが、夫と離れて一日過ごすことが可能になり、帰りは送迎者での送迎が可能になってきた。 当初は、卓球をしないと夫と離れられなかったが、早いうちにパターンがつかめた感じで、座ってきけるようになった。 他利用者の詩吟を聴いたり、ゲームなど、卓球以外の活動にも、他の利用者と参加されている。参加2～3回目からは、静かに座って他の人たちとミーティングに参加したり、一緒に行動することを自然とされるようになった。グループ活動が好きな様子。 意味性認知症のため、話しかけに対して理解は難しいが、「卓球」「歩く」などの簡単な単語は理解され、話されたことに対して相槌を打つと笑顔で話される。 株の話と、現役時代の歩こう会の話は自らされる。						
好まれているプログラム	卓球。外出。						
その他	意味性認知症であるが、握手を求めたり話しかけや、本人とのコミュニケーションは重要。 夫の介護負担が高く、現在、行動を鎮静化させるためにも本人が入院中。 次に何をすることがわかると安心できるようなので、道具などを見せて次の予定を知らせる。						

個別ケース 12

性別	女性	年齢	67歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年8月8日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成23年		
家族構成	夫と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (月1～2) 回 送迎 有 (無)						
生活歴 (職業など)	主婦						
性格・趣味 など (現在)	穏やかな性格						
本人の希望	アートワークがしたい						
家族の希望	アートワークを続けたい						
利用に至った経緯	アートワークを継続したい為						
利用による変化	NPOでアートワークをしていた時よりのびのびリラックスされ、笑顔が増えた。スタッフや女性利用者とのコミュニケーションが見られるようになった。少し、会話のやりとりが増えたように思う。						
好まれているプログラム	アートワーク						
その他	遠方から夫と通ってこられるが、回数は、今年から月2回に。						

個別ケース 13

性別	男性	年齢	82歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年11月11日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成19年		
家族構成	長男夫婦との二世帯住宅で妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	精密機械の設計						
性格・趣味 など (現在)	陶芸 詩吟 料理 ピアノ 将棋						
本人の希望	在宅において、健康で、楽しく充実した毎を送りたい。						
家族の希望	本人が、楽しく意欲を持ってできる事を見つけない。						
利用に至った経緯	もともと好奇心旺盛だが、閉じこもりがちになり、かかりつけ医の紹介。 妻の介護負担の軽減。						
利用による変化	利用当初は、何をしに来ているのかわからず、帰宅欲求がみられたが、料理や将棋などをされ、他の利用者と交流して、楽しそうに過ごされている。帰りたいといわれることがなくなった。冗談を言われる場面が増え、リラックスされている様子がみられる。調理では、他の利用者から称賛される。何年か前に料理教室に通っていたが、家ではされていなかったと言うが、手つきがよく、切るのも早い。						
好まれているプログラム	料理 将棋 詩吟						
その他							

個別ケース 14

性別	男性	年齢	78歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成26年1月15日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成21年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (3) 回 送迎 有 (無) 家族と歩いて来ている						
生活歴 (職業など)	自営業 (酒屋)						
性格・趣味 など (現在)	詩吟 カラオケ						
本人の希望							
家族の希望	週何日かでもデイサービスを利用して、家族以外の人と関わりを持って欲しい						
利用に至った経緯	妻の介護負担の軽減。						
利用による変化	昔習っていた詩吟を再開でき、楽しみにされている。 歌うことも楽しみにして来てくれている。年代の同じ人たちと楽しそうにしておられる。 スタッフや他の利用者の顔を覚えてくれている。 歌が好きだけれど、歌がなくても、そこに座ってくださる。						
好まれているプログラム	詩吟 カラオケ (伴奏がなくても音程がはっきりしており、歌詞カードを見ただけですぐに歌える)、コマ回し (手続き記憶)						
その他	平成24年ごろ、自転車に乗って道が分からなくなり、東大阪で見つかる。家では同じものを買いつけたりされることがある。散歩中に知り合いの店にふらっと入って行ってしまわれたりするのでは、見失わないように注意。仕事場や仕事にとっても愛着を持っていることを、大切にしたい。						

個別ケース 15

性別	男性	年齢	65歳	要介護度	要介護2	利用開始日	平成26年1月31日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成21年		
家族構成	妻と二人暮らし			認知症高齢者の日常生活自立度			Ⅲb
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無						
生活歴 (職業など)	自営業 (呉服屋)						
性格・趣味 など (現在)	温厚な性格 趣味は、囲碁・将棋は有段者、歌						
本人の希望							
家族の希望	認知症の進行を防ぎたい。将棋や囲碁をさせたい。字を書かせてほしい。						
利用に至った経緯	妻が店に出ている間、何もすることがない。 ジム系のデイサービスを利用したが、脳梗塞の方などが対象で、指示についていけなくなった。 囲碁や将棋も一般の方相手では難しくなっており、日中活動の場が必要であった。						
利用による変化	笑顔と他者とのコミュニケーションが増えた。リラックスされた様子で冗談も言われる。 利用初日は氏名を書くのも難しく、スケジュールを転記できなかったことに対してショックを受け、書字に抵抗があったが、メインのプログラムは転記されるようになった。 囲碁は「blankがあってできない」と、見学を勧めても席を外されていたが、他の利用者に直接勧められて対局され、「頭を使わなくていい歌などに逃げていたが、これから少しずつやっていきたい」と前向きな発言がみられるようになった。負けても「まだ自分もできるんやと思った」と話された。 他のデイサービスにも行きはじめた。						
好まれているプログラム	歌、囲碁、将棋、ゴルフ						
その他	病気のことや、忘れたなどは、まだ他の利用者の方が話していても話す気持ちにはなれない様子。少しずつでも自信をつけてもらおうと共に、いろんなことが思うようにできなくなってくる自分にもやさしくなれるように、支援が必要ではないか。						

個別ケース 16

性別	男性	年齢	67歳	要介護度	要介護2	利用開始日	平成25年8月1日
原因疾患名	大脳皮質基底核変性症			発症年度	平成22年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (1) 回 送迎 有 (無) 妻とともに電車などで通う						
生活歴 (職業など)	会社員(建築資材メーカー)						
性格・趣味 など(現在)	真面目で優しい						
本人の希望	妻と二人で今までの生活を続けたい						
家族の希望	悪化しないよう介護サービスを利用したい。離れられるようになりたい。						
利用に至った経緯	外出するというが、いざ外出すると目的地までの道中に帰りたがり行く場所がなかった。						
利用による変化	<p>毎週定期的に、定刻まで利用できている。</p> <p>できることや発言が増え、穏やかな表情で、笑顔が増えた。</p> <p>他のメンバーと同じプログラムに参加し、徐々に、妻と離れて過ごすことができるようになった。</p> <p>以前は嫌がっていたアートワークにも妻と離れて参加され、スタッフのサポートで多くの作品を完成することができている。</p> <p>ラジオ体操では体幹が安定してきた。歩行時の傾きが改善されている。</p> <p>食べたいものなど、自分の意見を言えるようになった。</p> <p>食事のかたづけを自ら率先してされる。</p> <p>他の人との会話にも参加し、笑顔と言葉が良く出るようになってきている。</p> <p>他の利用者と口論になったが、後でその利用者に自分から謝りにいかれた。</p>						
好まれているプログラム	料理、食器を運ぶ、テーブル拭きなどのお手伝いの事、アートワーク						
その他	自分でできることはできるだけ自分でしてもらおう。意識して両手動作を取り入れる。						

個別ケース 17

性別	男性	年齢	67歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年11月1日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成25年		
家族構成	妻と二人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (1) 回 送迎 有 (無) 自分で通ってこられる						
生活歴 (職業など)	マンションの清掃 (現役)						
性格・趣味 など (現在)	ピアノ、歌、英会話						
本人の希望							
家族の希望	デイサービスを利用して、人と交流して欲しい						
利用に至った経緯	二人だと、中々話さないし、難聴のため、人とのコミュニケーションが取りにくい。						
利用による変化	<p>デイサービスを利用して、人との交流が増え、スタッフを介さなくても、他利用者とのコミュニケーションを楽しまれている。聞こえの問題はあまり感じられないくらい。音楽を楽しみにきている。</p> <p>利用当初は、他利用者が外出すると、付いて外出するという感じだったが、「歌いたいのので部屋に残る」など意思表示をされ、希望のプログラムを楽しまれている。「ギターを聴かせてください」とスタッフに言われたこともある。</p>						
好まれているプログラム	歌						
その他	突発性難聴 (補聴器使用)。						

個別ケース 18

性別	男	年齢	69歳	要介護度	要介護1	利用開始日	平成25年10月17日
原因疾患名	前頭側頭型認知症			発症年度	平成22年6月		
家族構成	妻と母の三人暮らし						
サービスの利用状況	通所 週 (1) 回 予定 送迎 有 (無) 初めの頃は妻と来られていたが、一人で来所される。						
生活歴 (職業など)	電気メーカーの検定技師						
性格・趣味 など (現在)	囲碁 笛 園芸 ジム通い 人の役に立つことがしたい						
本人の希望	困っていることは無い						
家族の希望	今のところは、大きな問題も無く生活できているが、これからのことを考えて介護保険のサービスを利用したい。						
利用に至った経緯	沖田先生の紹介						
利用による変化	<p>10月、12月、1月は各1日しか来られなかったが、2月は3回来られた(通所回数が増えてきた)。</p> <p>意味性認知症でコミュニケーションが難しかったが、スタッフや他利用者とのコミュニケーションがとれるようになった。歩行中、タイミングが合えば会話ができることもある。言葉が通じると安心される。自分から質問してくれるようになった。</p> <p>囲碁を目的に来られ、話しかけると険しい表情で、他者との交流を避け、昼食も希望により別の場所で摂られていたが、囲碁以外の活動にも参加され、昼食も一緒に摂れるようになった。</p> <p>「行きたい場所がある」と、帰りたい時間に帰られていたが、定刻まで参加されるようになった。散歩中に帰ってしまうこともあったが、「ノートを持って帰ってください」と言うと「わかりました」とちゃんと帰ってきて定時までいることができた。</p> <p>体温測定も拒否的だったが、何をするのか理解できるようになり、最近はできるようになってきた。</p> <p>「囲碁しましょう」と対局相手を誘うようになった。帰りに「また、お願いします」と言って帰られる。</p> <p>自分で勝手に歩いた日の、次の利用日に「この前は勝手なことをしてすみませんでした」と謝ってこられた。</p>						
好まれているプログラム	囲碁						

その他	囲碁は言葉をほとんど使わないが、対局相手との仲間意識は強く、他の場面で会話もみられるので、続けられるように配慮する。
-----	--

個別ケース 19

性別	男	年齢	77歳	要介護度	要介護2	利用開始日	平成25年11月29日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成22年		
家族構成	妻と二人暮らし			認知症高齢者の日常生活自立度			Ⅲ a
サービスの利用状況	通所 週 (1) 回			送迎 有 (無)			
生活歴 (職業など)	会社員(経理)						
性格・趣味など (現在)	詩吟						
本人の希望	物忘れが多くなってきた。家族に迷惑をかけないようにしたい。						
家族の希望	閉じこもりにならないようにデイサービスを利用したい。						
利用に至った経緯	他のデイも利用しているが、同世代の人との交流を図りたい。						
利用による変化	利用当初は抑うつ的な表情で「何もしたくない」と言われていたが、色々な活動に参加され、「自分でも何かしないといけないと思っている」と前向きな発言や笑顔が見られるようになった。						
好まれているプログラム	コマ回しがうまい(手続き記憶) ボーリングや輪投げなどの簡単なゲーム						
その他	自分からすすんで話されることが少ないので、ミーティングや座談の時は意見を聴くようにすることが必要。						

個別ケース 20

性別	男	年齢	62歳	要介護度	要介護2	利用開始日	25年12月13日
原因疾患名	アルツハイマー型認知症			発症年度	平成25年		
家族構成	妻 息子 娘						
サービスの利用状況	通所 週 (2) 回 送迎 <input checked="" type="radio"/> 無 送迎を利用されるようになった						
生活歴 (職業など)	荷物の運搬 (ドライバー)						
性格・趣味 など (現在)	ユーモアがある反面、人見知りする。真面目でまっすぐな性格。趣味はゴルフ。						
本人の希望	自宅にいるとやることがない。体を動かして、気が晴れるようにしたい。						
家族の希望	病気に対抗する意欲を持ち続けるためにも、外の世界に触れ続けさせてあげたい。 デイサービスを利用する事が楽しみとなって欲しい。						
利用に至った経緯	沖田先生の紹介 自宅にいる時間を減らし、活動性の向上を図りたい。						
利用による変化	単独での活動をされていたが、他の方と同じ活動に参加されるようになり、スタッフを介さなくても、他利用者と話をされるようになった。 周りの状況を見て、自発的に椅子や机を動かすなど積極的に手伝いをしてくれる。 送迎車の中で認知症という言葉を出して病気について話すことができる。						
好まれているプログラム	ゲームなどの活動より、大作業 (棚の組み立て) や洗車など、仕事の様な内容の活動が好まれる。ゴルフ						
その他	経済的なことを本人は気にしている。現在、高齢者施設にボランティアに行っているが、気乗りはしていない。しかし、「せっかく来てほしいといわれたから、すぐに辞めるわけにはいかない」と律儀さを示される。今後近所の作業所などに通うことも検討中。						